

持続可能な観光業モニタリング

チームB

環境持続可能性は階層構造を持つ

- 環境資源・景観資源・生産物資源などのレベル
- 宿泊・移動など受け入れシステムのキャパシティーレベル
- サービスする人的対応キャパシティーのレベル

モニタリングと制限による持続可能性

過剰



過少

最適

モニター

制限(環境税)

例:シンガポールの都市部の通行税

※観光資源の維持と
経済価値の向上にコンフリクトがある
⇒そのことが持続可能性に疑問を
投げかけている

例:岐阜県白川郷

環境資源・景観資源負荷のモニタリング

- 地元特産物の生産量と市場価格
- 水質の汚濁
- 植生の変化による自然破壊度
- 残留ゴミの量
- サンゴの観測・・・水深が浅ければわかる・・・死ぬとわかる
- 夜間光の度合
- 温度上昇・・・富良野
- 空家の存在

これらを総合的に加味した

「環境負荷指標」＝持続可能性指標を作成し環境税に反映

地域負荷・人的負荷のモニタリング

- 環境客数／環境資源該当エリアメッシュあたりの人口＝サービス負荷
- シーズン生産性の違い＝繁忙期／閑散期（来客数の差）
＝産業の観光立地で生活できる持続可能性
- SNSの評判・サービス負荷の結果（顧客評価持続可能性）

これらを・・宿泊、移動、物品販売など人が観光客に対応する人的対応負荷の指標としてモニタリングし、一定を超えたらサービス対応量に制限をかけるようサービス環境税を付加